



鶏 鳴

けいめい

2010年2月14日(第33号)

イエスの言葉

『正しいことをすべて行うのは我々にふさわしいことです』

聖言(マタイ福音書3章15節)

牧師 河合裕志

今でも上野に行くとき洗礼者ヨハネに会える。西洋美術館の中で説教している。もっともそれはロダン作のブロンズ像だけ。よく見ると右手の人指し指が後ろを指している。これって、彼のあとから来る人、イエスを指しているみたい。

ヨハネはヨルダン川のほとりで叫んだ。「わたしよりも優れた方が後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたがその方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

ユダヤ全土から多くの人々がヨハネより洗礼を受けようと続々と詰めかけた。長蛇の列。その最後尾にいつの間にかイエスが立っている。やがて番が来てイエスはヨハネの真ん前に立った。ヨハネはハッと。その澄んだ眼差し。なんとなく威厳が漂う。あの方ではないか! 違いない。今にもヨハネの前に身をかがめて洗礼を受けるポーズをとろうとしたイエスをヨハネはあわてて止めさせて言った。「わたしこそあなたから洗礼を受けるべきです。」

さすがはヨハネさん。自分の分際をよくわきまえている。偉そうに民衆に罪の悔い改めを求め罪からの清めのしるしである洗

礼を授けて来たがひと皮むけば自分こそ清めを必要としている人間であることをここで素直に言い表わしている。

これに対しイエスは言った。「今は止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは我々にふさわしいことです。」

これってどういうこと? わからない。不可解。だってイエスは神の子、罪なき者。洗礼を受け罪の赦しを与えられる必要はこれっぽっちもない。なのに洗礼を受けさせて、お願いだから、これは正しいことなんだ、と。それで仕様がなくヨハネは洗礼を授けた。イエスは川に身を沈める。一人の罪ある人のように。

イエスの洗礼、それにはこういう訳があったんだ、とわかるのは十字架にかかったイエスを見た時。イエスは何も悪いことはしていないのに十字架につけられた。それは全ての人の罪を背負ってということ。

そして代りに神の罰を受け私達に赦しをもたらしてくれた。

イエスの洗礼はその十字架を予め指し示したものであろうか? 人間の罪を背負って洗礼を受けた。十字架の予行練習。とに角イエスは罪ある私達の親友となり罪の重荷を荷ってくれた。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分

子どもの教会 : 毎日曜日午前9時

中高校生会 : 毎日曜日礼拝後

婦人会・壮年会 : 第2日曜日礼拝後

聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時

オリブの会(読書会) : 第3月曜日午前10時